

整形外科の救急について



西条市医師会理事
そのべ医院
園延峰義

整形外科の救急のうち、主にけが（外傷）などについて書かせていただきます。

■手足のけがの手当ての基本
手足（四肢）にけがをしたときは、けがをした部位を冷やし（Icing）、包帯などを巻いて圧迫（Compression）し

た上、けがをした部位が心臓よりも高い位置にくるように保ち（Elevation）、安静（Rest）にする「RICE」を行い、痛みを和らげ、腫れ、むくみ、内出血の発生を予防することが大切です。

■打撲
皮下組織の損傷のうち、皮膚に開いた傷のないものを打撲といい、体に強い外力が加わったときに起こります。打撲を負った部位が赤くなって腫れ、腫れや痛みは打撲を負

った直後よりも数時間後に強くなり、入浴や飲酒によつていっそう強くなります。ただちにRICEを行い、整形外科などの専門医を受診し、痛みや腫れをとるための消炎鎮痛剤・湿布等の処方を受けたほうが早く楽になります。

知覚障害（しびれる、熱い・冷たいを感じないなど）、運動障害（動かせない、力が入らないなど）を伴うときは、必ず整形外科を受診しましょう。

■捻挫
関節に無理な力が加わったために、関節を取り巻いている靭帯・関節包・軟骨といった支持組織が傷ついた状態をいいます。

関節に、腫れ・痛み・皮下出血などが生じます。痛みのために、関節は動かすことができせん。ただちにRICEを行ってください。捻挫は骨折や脱臼に比べれば軽いと

考えて、大ざっぱな治療を行います。整形外科医などの専門医の治療を受けるこ

とが必要です。中途半端な治療を行うと、くせになって、痛みがとれず、捻挫をくり返しやすいになります。

■脱臼

関節を構成している骨がずれたり、はずれたりして、骨の並び方が正常でなくなった状態をいいます。関節が動かせなくなり、無理に動かそうとすると激しく痛みます。

○外傷性脱臼

関節に強力な力が加わって起こる脱臼で、スポーツ外傷

・交通事故・労災事故などでよく起こりますが、日常生活の中のけがでも起こることがあります。脱臼した関節の部分の骨が折れていることもあり、これを脱臼骨折ともいいます。必ずX線検査を行って骨の状態を確かめます。そして麻酔をかけて、正しい位置に戻す整復を行います。

■骨折

骨折のうち、皮膚に傷のないものを皮下骨折または閉鎖骨折といい、皮膚が破れて骨が外に飛び出しているものを複雑骨折または開放性骨折とい

います。開放性骨折は皮膚が破れているため、そこから感染が起

こりやすくなります。

■日常生活で起こる主な骨折

○上腕骨顆上骨折

この骨折は小児で最も頻度の高い骨折の一つです。小児から小学校低学年の子どもによく起こります。ほとんどは滑り台・鉄棒・ブランコ・跳び箱などをしていて、手を伸ばし転倒したときに生じる伸展位骨折で、発育のための軟骨が損傷され、適切な治療を行わないと神経麻痺や変形治療等後遺症を残します。

○上腕骨外顆骨折

発育期の幼少年に起こりやすい顆上骨折と同じく、手を伸展し倒れて発生します。

※この骨折のうち、左図の場合は観血的手術を要し、適切な治療を行わないと後遺症を残します。



【上腕骨外顆骨折】
骨片の矢状転位

○橈骨下端骨折のうちのコリーヌ骨折

手の平を突いて倒れた際に起こす骨折で、最も頻度の高い骨折の一つです。外見上フ

オーク様変形を呈する高齢者に起こりやすい骨折です。

■手首の変形を来たしたり、神経麻痺を起こす場合があるので、整形外科医などの専門医の治療を受けることが必要です。

○脊椎圧迫骨折

高い所から飛び降りたり、尻もちをついたりしたときに起こります。骨粗しょう症のある高齢者はちよつとしたはずみで背骨がつぶれ、圧迫骨折を起こすことがあります。

○大腿骨頸部骨折

太ももの骨の股の付け根部の骨折です。高齢者が転倒したときに起こりやすい骨折で、骨折の中で最も治りにくいものです。高齢者が寝たきりにならないように、必ず整形外科医などの専門医の治療を受ける必要があります。

現在、愛媛県では南予・東予を中心に、徐々に医療崩壊が進んでおります。西条市では開業医・勤務医が一体となり、市民の皆様の救急に不都合のないように、日夜努力を重ねております。市民の皆様のご協力のほど、お願い申し上げます。